

久々に海外遠征しましたので、コロナ前との比較をしながら少しレポートします。

※ウインターシリーズに出場

メルジェス 20 は春夏の欧州シリーズと冬の北米マイアミシリーズが開催されています。世界選手権は欧州、北米の交互に組まれます。今年は北米の年で 4 月にマイアミで開かれる予定でした。

テンプスチームはその前哨戦たる 3 月のレース参戦を企画しました。想定としてはワールド前の多艇数を期待。前年の 12 月から段取りを始めました。

※予約の順番

先ず、チャーターボートの確保が肝心。現地の幹事のケイレン氏に問い合わせます。すると、『電子機器メーター完備の実績あるミッドナイトブルーがあるよ』の回答。前日練習日+レース日程で艇を確保。想定では、チャッチャとマストを立てる程度の準備でマイアミのセーリングが堪能出来ると思っていました。

同時進行で「宿泊」「航空券」「レンタカー」を確保します。円安とインフレで 3 年前の遠征より出費が嵩みます。マイアミまでは乗り継ぎ便になります。今回は全員同じ便で JFK 経由にしました。とにかく、想定外が起らないように。

※持参物

ボート以外の物は日本から持って行きます。「セール」「工具」「無線機」「ライジャケ」そして「バテン」。J 社に事前問い合わせすると、『セーリング用具はボードセーリングに準じますから 1 個 2 万円チャージ』との回答。バテンは 180cm。さて、どうする？『航空貨物での運搬をお勧めします』とも。

日頃、飛行機利用が多く羽田空港国内線ターミナルで札幌便のお客さんを見ていると何か長大荷物をチェックインしている風景に遭遇。スノボケースです。今回のマイアミ遠征に“スノボ”を持っていくことにして荷物問題を解消。日焼けしたクルーはプロスノーボーダー？！

※ワールド日程の急変

準備は順調。14 時過ぎにマイアミ到着する便も確保。初日から余裕ある旅程。

ある日、『ワールド日程が 11 月に変わってるよ』との情報。HP を見ると確かにシレッと変更されていました。WBC の組み合わせが突然変わるのを見てもアメリカファーストの現実を感じます。

その為、3 月レースは参加数が減り、エントリーするも来ないチーム続出で結局 7 艇レースに。Kuai、Gamecock の両雄参加が目玉でした。

※成田出発

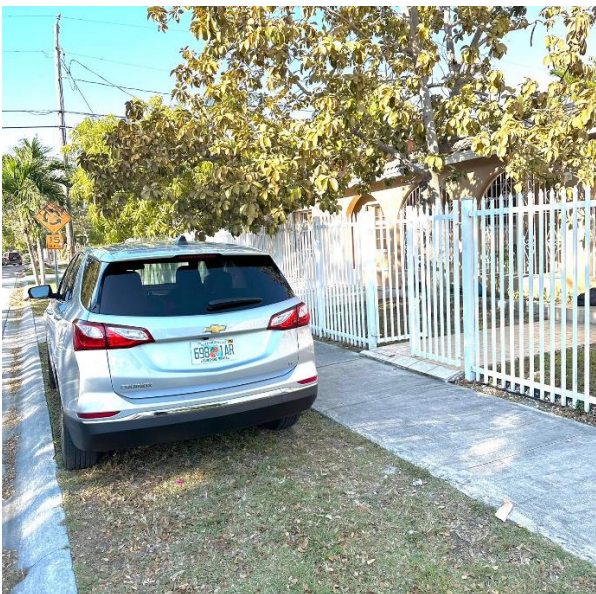
1月、2月に数回練習してから3月1日成田空港に集合。J社勤務の大学ヨット部の後輩が当日のチェックインに来てくれました。“スノボ”を無事に預けてラウンジでカレーの儀式を済ませて、飛行機は追い風に乗ってJFKに到着。順調順調。

しかし、遠征の神様は少しずつ試練を与え始めます。マイアミ空港で“スノボ”を待つのも出てきません。他の荷物はプライオリティタグをつけて早々に出るも。何と“スノボ”はJFKで積み忘れ。幸い、マイアミ便は1時間毎なので後発便で来るはずとのこと。この程度で済んで幸いとなりました。

※レンタカーでエアビーへ

テンプスはヘルムスマンが車の運転を担当します。タクティシャンがナビを。これは、レースでの意思疎通練習でもあります。ですから、外出時の飲酒はクルーのみ。宿舎に戻ってからヘルムスは少し飲むだけ。これはJ24時代からの習慣です。マイアミは3回目でしたが最初の時に言われていた「老人の運転に注意」が自分に向けられている？との年月を感じました。(帰国時の一人レンタカー返却で迷い道。あせった。)

ミッドサイズSUVを借りたので、“スノボ”も楽々収納。まずは、エアビーで借りた家に向かいます。今回は、Shake a Legでの開催ですのでそこから車で10分の住宅街の一軒家を借りました。ここでの誤算は、洗濯機無しを見落としていた事です。でも、マイアミは真夏でシャツ1、短パン1の手洗いで済みました。着替えは外出着だけで済みました。

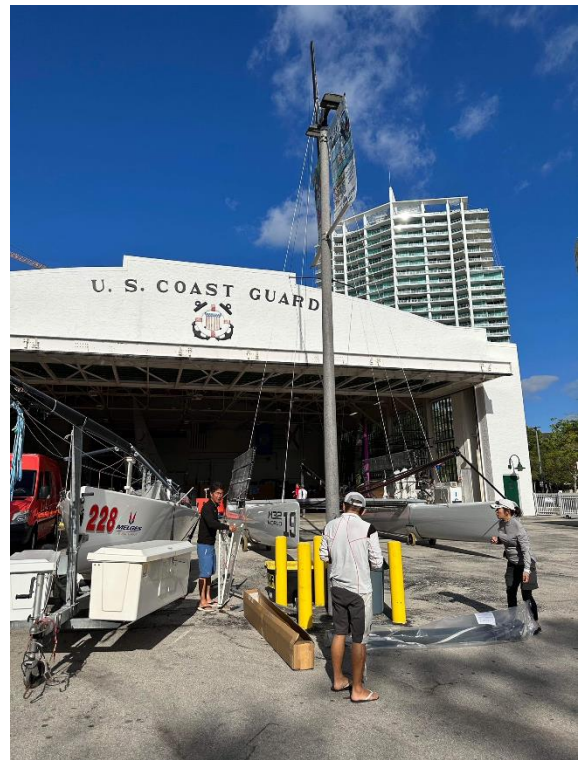


※チャーターボート

本題に入っていきます。良いボートとのふれ込みの艇とDAY-1の9時に対面しました。指定の場所に置いてありセットアップを勝手に始めてくれと言われ、マストチェックから始めます。スプレッダーの振り角がクワンタム仕様なので2ひねり程いじりました。ここで、大きなトラブル発見。メインハ

リヤードのロープが抜けていたのです。流石にこれはケイレン君にクレームして 90 分ほどでリペアしてもらいました。フィッティングを続けると、ブロックの交換やら電子機器不良などマイナートラブルを数件発見。その度にケイレン君に伝えますが、実は彼も抱えているボート(ペイドクルーとして)があり「出来ることは自分でやってください。お願いします。」と業者の皮が剥がれてきます。

そうなんです、実は US メルジェスの実体は本社とも協会組織、フリートとも違いケイレン君が一人?! で回しているような感じでした。猛暑の中、作業を続け 15 時にドックアウト。マイアミの海に出ると苦労も吹き飛びます。遠くにマイアミのビル群が見える景色を楽しみます。



※レース

DAY1の 9 時に運営と選手の対面ミーティングがありました。今回は VX1艇種との共同レースです。VX の 5 分後にメルジェス20がスタートします。上マークはメルジェスの方が短く設定。うまく交錯しないタイミングで周回させていました。

面白かったのは DAY2 は「スプリントレース」で上まで 10 分以内で団子状態のレースがありました。初日が20KT だったこともありスーパーチームと大差になりレースが大味でしたが、スプリントなのでスーパーチームを間近に観測。この形式は日本でも試してみる価値があるように思います。

DAY2 以降は WhatsApp でのミーティングです。ローカルクラブ総出での運営。因みにジュリーは ZOOM 対応で海面には来ていませんでした。

企画として今回は、プロコーチ(元USオリンピックコーチ)が来ていてVSRで伴走し、色々とアドバイスする企画が組まれていました。(各オーナーの個別契約を期待か?)我々にもアドバイスがありましたが、強風でのリグテンションが日本より強めだったのが印象的でした。



*総括

久々の海外レースは日本では経験のできない楽しい1週間でした。今回一番に感じたのは、、以前のメルジェス20にいたスーパーチーム(お金持ち、プロ使い集団)の多くが抜けて、その代わりを新規取り組みのチームが埋め始めているという変化です。新規とは言え、昔の505やフィンに乗っていた選手オーナーです。

レースのレベルはスーパーチームは頭抜けていて、テンプス+プロ1名ではその下につけるのがやっとという感じ。以前の華やかさは減っていますが、ワンデザインの面白さを海外でも堪能できる面での優位性をメルジェス20はまだまだ持っていると思いました。海外遠征に興味があるチームがあればお手伝いしますよ。

「マイアミの奇跡、感動」の実現は夢ではありません。